

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第59回「インターネット博物館」

【すぐに古くなる新着情報】

インターネットはとにかく便利だ。いろいろな情報をすぐに入手できる。特に研究開発に必要な情報は大層充実している。すでに地球規模の電子図書館が実在していると言っても過言ではない。私は、調査研究に着手する学生諸君に、まずインターネットで調べてみることを勧めている。

しかし実際に使ってみると、インターネットの電子図書館には重大な欠点がある。それは古い情報がなくなってしまうことだ。この前までは確かに存在したページなのに今では見ることができない。夏休みに文献を調べたときには便利に参照できたページが、冬になっていざ卒論を執筆する段階になると消えていることがある。

従来の紙の書籍を集めた図書館は、どちらかという古い本が蓄積されているところに価値がある。絶版になって本屋さんの店頭と並んでいない本は、図書館で探すに限る。このような図書館の機能は、現在のインターネットによる電子図書館ではまだ弱い。

【昔の写真はないのですか】

インターネット自身に関する資料も、新しい情報は豊富にあるが、やはり古い情報は入手し難い。インターネットの歴史はそれほど古いわけではない。多くの関係者は今でも活躍している。それでも、以前の記録が残っていないと困ることがある。

これはわが国のネットワークの歴史にもあてはまる。以前に朝日新聞の服部桂氏が日本のネットワークの歴史の記事を執筆するというので、話をしたことがある。服部氏は、どうして折々の写真などが残っていないのか、と不思議な顔をしていた。ほかの分野では、何かしらの記録が残っているという。日本のネットワークの歴史では、JUNET (Japan University Network) が発足したのが1984年であることはよく知られている。しかしJUNETの写真と言われると、解散式の写真を出すほかはない。こんな分野はほかにはないと言われた。

私自身の反省もある。1985年にJUNETからアメリカに接続された頃のメールは数年間は磁気テープに保存していたが、今は持っていない。日本からアメリカのCSNETに最初にTCP/IPで接続したときの記録も、後年になって関係者からコピーをもらうというありさまである。

【コンピュータ博物館を見習う】

ネットワークに比べると、昔のコンピュータについては保存状態が良い。アメリカにはコンピュータ博物館がある。国内では富士通が保存しているリレー計算機を見学したことがある。私もインテルの8008のチップを2個保有しているし、IBMのパンチカード、さらにはデジタル社（現在はコンパックに吸収）のミニコンPDP-11の紙テープも持っている。いずれも現在では価値がないように見えるのだが、実際には大学の講義で教材として提示している。

先日、オーストラリア国立大学（キャンベラ）を訪問した際には、建物の入り口の部屋に古いコンピュータが並んでいた。壁がガラス張りになっていて、ちょっとした博物館のコーナーの雰囲気である。大学を見下ろす丘の上にはTelstra（電話会社）のタワーがあって、テレビの放送塔兼移動無線の基地局になっている。その一階には古い電話器や交換機が展示されていた。

古いネットワークの記録が残りにくいのは、コンピュータのようなハードウェア（物）ではないからだろう。あるいはハードウェアを保存してみても、それは昔のコンピュータであるか、昔の電線であると見なされるからだろうか。

【社会の変化を記録すべし】

インターネットは社会を変えると言われている。それは正しいと思う。現実に変化が始まっている。このような激動の時代には、変革を推進する人々だけではなく、記録を残したり現状を分析したりする人が必要である。

神社のお祭りの際には、御輿（みこし）を担ぐ人もたくさん必要だが、全員が担ぎ手になったのでは方向を見失う。適切な分業が必要である。その中には記録を残す役目も含まれる。

近い将来に日本のインターネットの様相を変化させる要因の1つは、学校（小中高校）へのインターネットの本格導入である。これは記録を残すだけでも大仕事になる。このような状況を察知して、ヨーロッパから研究者（複数）が日本に乗り込んできているのは、彼らの社会学の伝統というべきか。これに負けずに日本の側でも記録を残すという気運が盛り上がってほしい。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp